

アバターを安全かつ信頼して利用できる社会の実現

Project manager

新保 史生



慶應義塾大学 総合政策学部教授

代表機関

慶應義塾大学

研究開発機関

大阪大学、学習院大学、京都大学、慶應義塾大学、国際大学、静岡大学、東京大学、麗澤大学

プロジェクト概要

社会でCAを安全かつ安心して利用するため、利用者認証・CA認証・CA公証により実現されるCA安全・安心確保基盤の実現を目指します。アバター生活実現のために克服すべき社会的・制度的な課題を解決するため、「倫理・経済・環境・法・社会 (Ethical, Economic, Environmental, Legal, and Social Issues : E³LSI)に関する課題を明らかにし、国内外の技術・制度的課題解決に向けた提言を行います。CAの社会受容性を高めることで、CAが分身となり他者と接する世界、CA同士が接する世界、すなわち、CAを介した新たなコミュニケーション文明が開化することを目指します。

2030年までのマイルストーン

【CA安全・安心確保基盤の構築】

2030年までに、CAの安全・安心確保基盤及び社会受容基盤を構築することにより、望む人は誰もが身体的・認知・知覚能力を拡張して生活することができる社会の実現を目指します。そのために、操作者のなりすまし、CAの乗っ取り、CA内に蓄積される技能・経験情報等の不正取得（違法で不正な技能取得）、CAを使った技能模倣を抑制し、安全・安心・高信頼なCAの操作環境を実現します。

【E³LSI課題・政策展開】

個人の権利利益保護とCA安全・安心確保基盤に係る制度を両立させるための制度的枠組みを提示し、安全・安心なCA社会受容基盤を構築します。CAの研究開発及び社会実装に必要なあらゆる課題解決への方途を導くことができる研究体制を確立し、E³LSI課題への即応かつ時宜に応じた対応を可能にします。

2025年までのマイルストーン

目標1の各プロジェクトが開発するソシオCA、体内CAに対して、適用可能な利用者認証・CA認証・CA公証技術を提案し、これらを組み合わせることによって、CAの安全・安心を確保できる安全・安心確保基盤を構築するための研究を実施します。CA生活を推進するために必要な法や政策を社会に普及させるための組織を創設します。CA安全・安心確保基盤の構築に必要な制度を整備するために検討が求められるE³LSI課題を総合的かつ持続的に研究することが可能な研究体制の整備を目指します。

プロジェクト内の研究開発テーマ構成

